



## 多摩美術大学校友会会報 「alT」アルティ

The alumni association of Tama Art University

### No.10 目次 Contents

- 02 「出前アート大学」ってなんですか？  
第1回出前アート大学をレポート！
- 03 新役員のご紹介
- 04 支部・有志活動の報告とお知らせ  
校友会私費留学生奨学金制度  
校友会奨学金制度
- 05 第10回定期総会議事録  
収支報告書
- 06 TAMABI people's now vol.001 湯村輝彦&タラ
- 08 事務局からのお知らせ

## 小さなイラストレーションと大きな壁画 第1回出前アート大学

秋山孝  
(イラストレーター、多摩美術大学教授)

そば屋さんのようなネーミング、「出前アート大学」を渋谷・本町小学校で行いました。子供たちが描いた小さなイラストレーションが、小学校の体育館の大きな壁面を飾るという、小さくて大きな企画です。「渋谷の自然」というエコロジカルなテーマで子供たちが描いた絵は、プロセスを経て、デザインという手品によって美しい壁画となりました。これは、小学校の授業では実現不可能な、小さくて大きな授業です。子供たちにここで勉強してもらいたいことは、みんなが描いたイラストレーションが、専門家の力を借りると、自分だけでは想像できないほどの力が発揮され、目を見張るほどの名作が目の前に現れるということです。この「驚き」をポイントとして、「第1回出前アート大学」の授業を試みました。

その「驚き」とは何か。1.自分が描いたものと全く同じものが、自分の体よりも大きな作品になった。2. 専門家という特別な能力を持った人たちの協力を得ることによって、新たな力が生まれる、ということを知る。3.それを人々に見てもらい、対話が生まれる喜びと驚きを体験する。4.制作には、プロセスがあるということを知る。5.作品は長く残り、多くの人たちに作者の気持ちを伝え続けることができる。これら5つの「驚き」です。

表現の始まりは、さまざまな「驚き」から生まれます。そして、その感動から描かれたイラストレーションには独自のメッセージがあります。見る側の人たちは、その気持ちを読み取り、共感を抱きます。これがアートの原点です。その原点を表現するために、今回は、最先端の中川ケミカルのカッティングシートの技術を駆使して完成しました。

# 「出前アート大学」ってなんですか？

未来を担う子どもたちの教育の現場では、文化的・情操的な教育は退行する傾向にあります。私たちは美術を志し、アートの楽しさを実践してきた者として、文化的に豊かな未来とその未来を支える子どもたちのために、出張型授業を提供する「出前アート大学」を開校しました。美術大学の校友会という独自の文化的資源とネットワークを活かし、「アートの楽しさと感動」をテーマに、第一線で活躍するクリエイターを講師にむかえ全国の教室に授業をお届けしています。この活動を通して、多くの方にアートやデザインに関心を持っていただき、社会における文化的な豊かさ醸成の一助となればと考えています。

**特色はありますか？** この「出前アート大学」では、あらかじめ講師と内容を設定し、参加者を募るといった既存のメニューを持たないところが特色といえます。小学校の要望をお伺いし、その内容にお応えできるよう、校友会のボランティアスタッフが講師選定・派遣を含め、コーディネート役を務めさせていただきます。小学校と校友会と講師でその地域の人・時・空間の特色を引き出す授業をご提案したいと考えています。

## ■第1回出前アート大学をレポート！ 授業NO.001

7月26日・27日の二日間、「出前アート大学」初の授業を実施しました。今回、舞台となったのは渋谷区立本町小学校で、1年生から6年生までの30名が参加してくれました。講師には、イラストレーターの秋山孝氏（1979年GD卒・本学グラフィックデザイン学科教授）をおむかえしました。内容は「みんなの体育館を絵でかざろう」です。今回は「渋谷の自然」をテーマに、子どもたちがカッティングシートを使って切り絵を作りました。さて授業の現場は？そしてその先には…

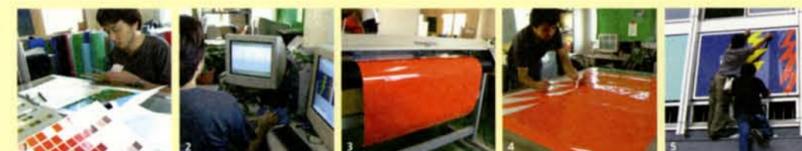


## 2004.07.26 mon. 14:00~16:00

**1時間目 (レクチャー：資料をもとにテーマと材料についての説明)**  
真っ暗な教室に集合です。「渋谷の自然」って何があるでしょう。毎日見ているように、鳥、花、木だけでもたくさん種類がありますね。マチスの作品、大学生の作った切り絵の作品、その制作風景など、プロジェクターで映されたたくさんの絵や写真を見てイメージを膨らませることができましたか？今日は秋山先生の他に、中川ケミカルの方もいらしゃいます。今回、みんなに材料としてカッティングシートを提供してくれた会社です。カッティングシートってどんなところで使われているかわかりましたか。銀行の看板、お店のショウウィンドウ、どれも街中でよく見かけます。  
**2時間目 (制作：アイデアスケッチ/イラストボードに下絵の作成)**  
さて、図工室に移動して作りはじめましょう。まずは真っ白いボードに鉛筆で下絵を描きましょう。もう一度、じっくり「渋谷の自然」を思い出してください。下絵が完成したら、今日はここまでです。

## 07.27 tue. 14:00~16:00

**1時間目 (カッティングシートの配布/扱い方の説明/イラストレーションの制作)**  
カッティングシート24色が配布されました。昨日の下絵をもとにイラストレーションを作ります。みんなはじめて触れる材料なので、どうやって切ったり貼ったりしたらいいのか、中川ケミカルのプロの方に教えてもらいます。もし、困ったところがあったら、秋山先生やスタッフの大学生に聞いてみましょう。  
**2時間目 (イラストレーションの制作/講評会)**  
まだカッターが上手く使えない人は、ハサミで切っても大丈夫です。さて、なんとか時間までに完成しましたね。では、講評会をしましょう。「渋谷の自然」のイラストレーションがたくさん生まれました。でも、みんなの作ったイラストレーションは、これで終わりではないのです。この中から10点の作品を体育館の大きな壁に飾りますが、ここからはもうひとつの制作プロセスがあります。中川ケミカルの方にお願いしてコンピューターと機械を使って、イラストレーションを大きくして壁画を制作します。完成が楽しみです。



**■カッティングシートによる壁画ができるまで**  
1. 作品の色を確認する。2. 作品をコンピューターに取り込み、アウトライン化する。3. プロッターでシートに切り込みを入れる。4. 余分な部分をはがし、色ごとにシートを作成する。5. 体育館の壁に加工済みのシートを転着する。



## 09.21 tue. 8:30~8:50

**完成 (秋山先生からのお話/鑑賞)**  
全体朝礼で校長先生、秋山先生からお話です。みなさん、体育館の壁を見て下さい。みんなが描いたイラストレーションが、こんなふうになりました。みんなが、こうしたら素敵な壁になるんじゃないかな…と考えて描いたイラストレーションがあったから出来上がりました。大きくなってびっくりしましたか？想像していた通りでしょうか。でも、自分だけだったら、ここまで大きなものにならなかったですね。デザインするって、みんなで協力し、専門家が集まって作り上げるものなんですね。デザイナー、イラストレーターって、こうしていろいろな人と関わって仕事をしているのです。

## 校友会の新会長、新副会長、新役員をご紹介します。

校友会の運営は、卒業生の代表者である役員のご協力で成り立っています。役員である学内の教職員、学外の卒業生が、ご自身のお仕事の合間、貴重な時間をさいて校友会を支えてくださっています。年6回(奇数月)に理事会を開催し、各議題について審議と決定をしていきます。今年度新しく着任された会長、副会長、8名の新任理事の方々をご紹介します。

- 平成16年度役員構成**
- |             |               |             |               |
|-------------|---------------|-------------|---------------|
| 鶴見雅夫('59油画) | 中森陽三('59油画)   | 茂木一成('60国平) | 田辺光彰('61彫刻)   |
| 神谷紀雄('63彫刻) | 向田吉彦('64映画)   | 上村二基('64国平) | 伊サオマツノ('64国平) |
| 安藤 亨('64国平) | 高岡俊樹('66立体)   | 青戸英子('67染織) | 増田 隆('68染織)   |
| 中野高之('68日画) | ほしのあきら('70映画) | 清水満久('71GD) | 田中康夫('71油画)   |
| 中村孝義('72GD) | 河内成幸('73油画)   | 須田基輝('74油画) | 安倍千雄('75彫刻)   |
| 田淵 誠('76建築) | 伊藤憲夫('76油画)   | 菅原公毅('81PD) | 和田達也('81PD)   |
| 坂井忠平('82建築) | 伝宝詩子('89芸術)   | 堀川 浩('91油画) | 末房志野('98GD)   |
- ※( )内は卒業年度、及び専攻

本年度から校友会副会長になりました田淵誠です。多摩美八王子卒業建築科の二期生です。現在は、改組により名称の変更と内容の充実を図った「環境デザイン学科」で教員ながら建築設計を行っています。新たに副会長になられた河内さん、青戸さんとともに、前任の方々のチームワークを見習い、新たに会長になられた鶴見会長をしっかりと支え、より強力に魅力のある校友会を作ると、気持ちを引き締めて望みたいと思っています。校友会は、八王子の卒業生が増え、新たな様相を示し始めています。校友会会員の在学生にとって、また、卒業して間もない新会員にとって、会員であることの喜びを感じられ、幅広い交流の輪ができる校友会となるよう取り組んでいきたいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。



副会長  
the vice-president  
**田淵 誠**  
Tabuchi Satoshi  
(1976建築)

受験をひかえ期待と緊張を胸に夏期講習に初めて上野毛の校門をくぐってから40年余の月日が経ってしまいました。今、その時は少し遅いですが、卒業生としての緊張と責任を感じながら校友会理事会に同じ門をくぐっております。その40年間に世の中は大きな波をものり受け、泡となってはじけたり、水底深く沈んでしまったりと必死でもがき苦しんで来たように思います。そして、ちょっと暇を放した間に教育の現場も我々が受けた自由さ、柔軟さが失われ、視点もずれてきています。これからの世界を築く子供達の感性、特に美術、音楽の分野に危険信号が見え、不安な思いにかられるのは私だけではないと思います。校友会の事業で「出前アート大学」が今年からスタートしました。後向きに現状に一石を投じることが出来ると思いついて、多摩美術大学校友会の10周年目を迎えたいと思います。



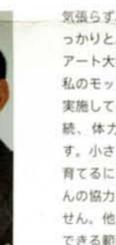
副会長  
the vice-president  
**青戸英子**  
Aoto Eiko  
(1967染織)

今回、校友会副会長になりました版画家の河内成幸です。前回まで理事を務めて、やっと校友会の有り方がわかってきました。私の今日の作品制作をする上で通過してきた環境を、後輩の皆様に如何に広く、大きく伝承していくかではないかと思われま。前会長の東海林さんが、「校友会とは自分が生まれ育った故郷のようなものです。」と答えられました。どんな動物でも生まれた環境(故郷)は、懐かしく、恋しいものだそうです。その環境は、動物的な感覚では母のようなものだといえます。昨今のニュースで、母が子を殺め、子が母を殺め、人間の心の環境が壊れていることを感じます。もう一度、美術大学の校友会を通して、懐かしい、恋しい環境を後輩の皆様に伝承できればと思っています。鶴見会長をアシストして、人とのつながりを作っていきたいと思っています。



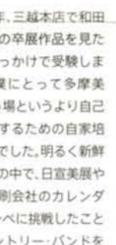
副会長  
the vice-president  
**河内成幸**  
Kawachi Seiko  
(1973油画)

多摩美を卒業して40年。多くの先輩、後輩達の仕事をご一緒する機会に恵まれました。それが個性がありながら、アートへ熱い想いと、周囲と調和しながら仕事を完成させていく姿勢に共通点があったように思います。アートが社会と接点を持つ時、膨大なエネルギーをアーティストに要求します。しかしアートに社会に定着させたいと思える瞬間の達成感は何物にも変えがたいものです。校友会を通して、アーティストとアートに社会に結びつける力に少しでもお役に立てればと願っています。



理事  
the director  
**安藤 亨**  
Ando Toru  
(1964国平)

気張らず、あせらず。しっかりと。これが「出前アート大学」を推進する私のモットーです。いざ実施してみると苦勞の連続、体力勝負となります。小さく産んで大きく育てるには、会員みなさんの協力がなくてはなりません。他人事と思わず、できる範囲で結構です。軌道にはいるには多少の時間と経験が必要ですが、重要なのは継続することです。見返りには、子どもたちのすばらしい笑顔と感性に出会えます。



理事  
the director  
**上村二基**  
Uemura Futaki  
(1964国平)

1959年、三越本店で和田誠さんの卒業作品を見たのがきっかけで受験しました。僕にとって多摩美は、習う場というより自己を確立するための自家培養の器でした。明るく新鮮な校風の中で、日宣展や大手印刷会社のカレンダーコンペに挑戦したことや、カントリーバンドをつくって美術祭でライブなど、ハッピーな時間がぎゅぎゅ詰まった日々を送りました。いま思うと、荒削りだが濃かった学生時代、これからは、aitの企画・編集を通じて、卒業生それぞれの「熱い時」を少しでも呼び覚ましていけたらと思っています。



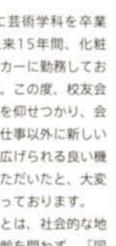
理事  
the director  
**ほしのあきら**  
Hoshino Akira  
(1970映画)

多摩美に入学したのは1972年のことでした。八王子キャンパスに移転して2年目。山の上の本館だけが目立って、周辺には美術アトリエがいくつも散らばっていました。八王子の夏は半端ではなく、あのプレハブの石膏デッサン室のどうしようもない任意的な暑さは私たちの時代の共通の記憶ではないでしょうか。現在、本学の企画広報部に勤務していて、目の当たりにする八王子キャンパスの施設拡張のスピードは驚くべきものがあります。まったく過去の面影を残していないその変貌ぶりを卒業生のひとりとして是非皆さんに見てもらいたいと思います。



理事  
the director  
**伊藤憲夫**  
Ito Norio  
(1976油画)

卒業してもう20年がたちました。今でも3月になると卒業生を楽しみに母校を訪れます。周辺の環境もキャンパス風景もこの20年でガラリと変わりましたが、学生たちの自由で明るいマビバワーに触れるとふるさとのように心地よさを感じます。このたび校友会の理事をお引き受けすることになりました。これまで会の基盤を築かれた先輩方の熱意を受け継ぎ、なお一層皆さんの交流・友情の輪をひろげ、いつまでも母校が心のふるさとであり続けられるよう、お役に立たせて頂きます。



理事  
the director  
**坂井忠平**  
Sakai Chuhei  
(1982建築)

89年に芸術学科を卒業し、以来15年間、化粧品メーカーに勤務しております。この度、校友会の理事を仰せつかり、会社での仕事以外に新しい世界を広げられる良い機会をいただいたと、大変張り切っております。校友会とは、社会的な地位や年齢を問わず、「同窓」という縁で結ばれた私たちが創り上げるネットワークです。多くの皆さんに参加いただき、美術大学という特徴を活かして、社会的にも意義のある、よりクリエイティブな活動のできる校友会となるよう努めたいと思っています。



理事  
the director  
**伝宝詩子**  
Dempo Utako  
(1989芸術)

Demae Art Daigaku × Honmachi elementary school (Shibuya, Tokyo)  
date : 2004.07.26, 07.27, 09.21 lecturer : Takashi Akiyama cooperation : Nakagawa Chemical, Inc.  
subject : Let's drawing a picture on the wall of a gym.

■次回の「出前」授業NO.002渋谷区立長谷小学校にて「風景を変えてみよう！」講師には、環境デザイナーの栗田融氏(1990年建築卒)をおむかえします。小学校内の活用されていない場(外部空間)を生きた場に変えることを通して、身の回りの環境を見つめ、考えるきっかけを作ります。

Report!  
出前アート大学  
No.  
001

多摩美50G同窓会

日時:2003年11月29日(土) 17:30
場所:新宿ホテルサンルート東京3Fカトリアの間
550年グラフィックデザイン科卒業生も卒業してから、まもなく25年が過ぎようとしています。



64年度卒業同期会開催・66名が参加!

日時:2004年6月6日(日) 15:00~17:00
場所:本学上野毛キャンパス
1964年に卒業した私たちは2004年6月6日に40年にして初めての全科合同の同期会を上野毛キャンパスで開催しました。



「ぐんたま」オープンキャンパスツアー2004(群馬支部)

日時:2004年7月17日(土) 8:00~18:00
場所:JR高崎駅~多摩美術大学八王子キャンパス
この「ぐんたま」企画も3年目となりました。今年は3連休の初日にあたり、バスでの移動中に渋滞にまきこまれるという事態にもめげずに、群馬県在住の受験生が、八王子キャンパスに到着しました。



第2回「ぐんたま展」(群馬支部)

会期:2004年7月16日(金)~21日(水)
場所:高崎シティギャラリー
2回目の開催となった「ぐんたま展」(トリエンナーレ)は、今年もたくさんの方々を足運んでいただき大盛況のなか幕を閉じました。今年は若い会員の参加により多様な表現が見られ、全体の展示作品に巾の広さと新鮮さをもたらしてくれました。



今年度も校友会奨学金を給付!

厳選な審査の結果、今年度も校友会奨学金が決定しました。選ばれた奨学生の皆さん、研究に制作に頑張ってください。

平成16年度校友会私費留學奨学生

- 温巧蓉(ウェンチャオジョン) 美術学部絵画学科油画専攻3年(台湾)
金英真(キムヨンジ) 大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻1年(韓国)
李乎然(リホヨン) 美術学部環境デザイン学科3年(韓国)
金南珠(キナムジュ) 大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻1年(韓国)
白録鉉(バクロクヒョン) 大学院美術研究科博士前期課程絵画専攻1年(韓国)

平成16年度校友会奨学生

- 越智彩 美術学部彫刻学科4年
笠間弥路 美術学部彫刻学科3年
竹永絵里 美術学部情報デザイン学科情報デザインコース4年
野本綾子 美術学部情報デザイン学科情報デザインコース4年
福田亜美 美術学部芸術学科3年
丸山敦理 美術学部絵画学科油画専攻4年
清水美里 美術学部絵画学科日本画専攻3年
岩永洋美 造形表現学部造形学科3年
甲田克明 造形表現学部デザイン学科4年
鈴木スバル 造形表現学部デザイン学科4年
鈴木将也 造形表現学部映像演劇学科4年
大内伸佑 造形表現学部映像演劇学科4年
長友宏江 大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻1年
藤崎順子 大学院美術研究科博士前期課程彫刻専攻2年
三宅直子 大学院美術研究科博士前期課程工芸専攻2年

ご報告

● 図案科534卒同期会

日時:2003年11月6日(木)
場所:ニュートーキョースキヤ橋本店
(議案第1号)平成15年度事業計画の報告
●和田達也事務局長(81PD)より説明(資料の読み上げ、以下に抜粋)(主な事業内容報告)

●九州地区(福岡・佐賀・大分・鹿児島)

「第3回九州地区多摩美術大学校友会展」
会期:2003年10月21日(火)~26日(日)
場所:福岡市美術館特別展示室B室
(議案第1号)平成15年度事業計画の報告
●和田達也事務局長(81PD)より説明(資料の読み上げ、以下に抜粋)(主な事業内容報告)

●千葉支部「第7回千葉多摩美会展」

会期:2004年5月25日(火)~30日(日)
場所:千葉県立美術館第4室
(議案第1号)平成15年度事業計画の報告
●和田達也事務局長(81PD)より説明(資料の読み上げ、以下に抜粋)(主な事業内容報告)

●神奈川支部「多摩美術大学校友会神奈川展2004」

会期:2004年5月20日(木)~26日(水)
場所:横浜市民ギャラリー1F
(議案第1号)平成15年度事業計画の報告
●和田達也事務局長(81PD)より説明(資料の読み上げ、以下に抜粋)(主な事業内容報告)

●ニューヨーク支部「HAFH~Home away from home~故郷(ふるさと)から離れた第二の故郷での表現」

会期:2004年10月20日(水)~11月19日(金)
場所:在ニューヨーク日本国総領事館多目的室
(議案第1号)平成15年度事業計画の報告
●和田達也事務局長(81PD)より説明(資料の読み上げ、以下に抜粋)(主な事業内容報告)



日時 2004年6月6日(日)13:00~14:30
会場 多摩美術大学上野毛キャンパス(3号館3階3-303講義室)

- 開会の挨拶 司会:藤森京子(03工芸)
●議長の選出 議長:稲垣行一郎(59図平)
●書記の選出 書記:松下宣康(69日画)
●議長より総会成立条件の報告(議決権所有者 5,659名中、出席者70名、委任状484名)
●議長が議事進行を宣言

- (議案第1号)平成15年度事業計画の報告
●和田達也事務局長(81PD)より説明(資料の読み上げ、以下に抜粋)(主な事業内容報告)
○新入生へのお祝いとして、八王子キャンパスに植樹(ソメイヨシノ9本・ザクロ1本)、上野毛キャンパスにベンチ一個を寄贈(4月1日)
○第48回理事会(5月17日)
○第9回定期総会
東海林隆が会長に就任、観見雅夫、稲垣行一郎が副会長に就任、和田達也が事務局長に就任、金岡岩雄が専任理事に就任。(6月1日)
○第9回支部長懇談会(6月1日)
○ガーデン同窓会&懇親会パーティー(6月1日)
○生涯学習特別公開講座の後援(山田静夫「歌舞伎がぼくを変えた」上野毛キャンパス講堂/6月1日)
○私費留學生奨学金を5名に給付(6月1日)
○第49回理事会(7月26日)
○第7回美大校友会・同窓会親睦交歓会(10月4日)
○第50回理事会・幹事会(10月25日)
○平成15年度奨学金を15名に給付(10月25日)
○八王子芸術祭の助成(11月1日)
○上野毛芸術祭の助成(11月1日)
○会報「alT」NO.9発行(11月10日)
○ニューヨーク支部設立「多摩美術大学校友会ニューヨーククラブ」(12月6日)
○「多摩美術大学校友会小作品展2003」の開催(ギャラリーくぼた別館/12月8日~14日)
○第51回理事会(12月13日)
○多摩教育の会「新春の集い」の後援(上野毛キャンパス/1月10日)

- 第52回理事会・新年会(1月24日)
○第53回理事会(3月6日)
●議長が質問を受け付けたが、質問は多く拍手多数によって議案第1号は承認された。
(議案第2号)平成16年度事業計画
●和田達也事務局長(81PD)より説明(資料の読み上げ、以下に抜粋)(主な事業計画案)
○新入生へのお祝いとして、八王子キャンパスに植樹(ソメイヨシノ5本・コブシ2本・ハナズキ1本・ケヤキ1本・ザクロ1本)、上野毛キャンパスにベンチ一個を寄贈(4月1日)
○第54回理事会(5月15日)
○第10回定期総会(6月6日)
○第10回支部長懇談会(6月6日)
○ガーデン同窓会&懇親会パーティー(6月6日)
○私費留學生奨学金を5名に給付(6月6日)
○第55回理事会(7月10日)
○第56回理事会(9月18日)
○平成16年度奨学金を15名に給付(9月18日)
○会報「alT」NO.10発行
○八王子芸術祭の助成(11月1日)
○上野毛芸術祭の助成(11月1日)
○第57回理事会(11月20日)
○「多摩美術大学校友会小作品展2004」の開催(ギャラリーくぼた別館/12月13日~19日)
○多摩教育の会「新春の集い」の後援(上野毛キャンパス/1月)
○第58回理事会(1月22日)
○第59回理事会(3月5日)
○「出前アート大学」の実施
○愛媛支部設立準備
○大学創立70周年(2005年)記念事業にむけての検討
○第8回美大校友会・同窓会親睦交歓会
○質疑 太田幸夫(62図平)
「出前アート大学」のなかで、「デザイン」はどのような位置づけになっているのか、またこの事業の費用は実務的にどうするのか、補足していただきたい。
○応答 菅原公毅担当理事(81PD)
「アートとはデザイン等も含めた意味だということは、理事会で承認を

- いただいていると思います。費用に関しては年間500万円をとり、準備金として動いております。まず1回実施し、今後のことを検討していきたいと思っております。
○質疑 中野嘉之(68日画)
「出前アート大学」の学生に対するアプローチがあってもいいと思います。
○応答 東海林隆会長(57図案)
「専員である学生には、アルバイトとして講師のアシスタントをしてもらい、参加することで校友会の活動をわかっていただくように考えています。」
●その後、議長が質問を受け付けたが、質問は多く拍手多数によって議案第2号は承認された。
(議案第3号)平成15年度決算報告
●金岡岩雄理事(58油画)より説明(平成15年度収支報告書参照)
●議長が質問を受け付けたが、質問は多く拍手多数によって議案第3号は承認された。
(監査報告)
●中森隆三理事(59油画)より報告
●議長が質問を受け付けたが、質問は多く拍手多数によって監査報告は承認された。
(議案第4号)平成16年度予算案
●金岡岩雄理事(58油画)より説明(平成16年度予算案参照)
●議長が質問を受け付けたが、質問は多く拍手多数によって議案第4号は承認された。
(議案第5号)会則変更案
●和田達也事務局長(81PD)より説明
●議長が質問を受け付けたが、質問は多く拍手多数によって議案第5号は承認された。
(議案第6号)平成16年度役員改選案
●和田達也事務局長(81PD)より説明(以下に抜粋)
●議長が質問を受け付けたが、質問は多く拍手多数によって議案第6号は承認された。
●議長が全議案の成立を報告し、第10回定期総会の終了宣言をした。
■挨拶 校友会新会長 観見雅夫(59油画)
■挨拶 大学理事長 藤谷宣人

平成15年度収支報告書(平成15年4月1日~平成16年3月31日) 平成16年度予算 積立基金(平成7年11月3日~平成17年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Includes rows for 当期収入合計, 会費収入, 名簿収入, etc.

Table with 5 columns: 基本準備金, 奨学金基金, 名簿出版準備金, 特別事業費積立金, 全基金積立額. Includes rows for 平成07年度, 平成08年度, etc.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. Includes rows for 経費支出, 広報費, 卒業生名簿管理費, etc.

Table with 5 columns: 基本準備金, 奨学金基金, 名簿出版準備金, 特別事業費積立金, 全基金積立額. Includes rows for 平成11年度, 平成12年度, etc.

■会費の納入をお願いいたします!

校友会の運営の全ては、会員の会費によって成り立っています。1998年入学者より学費と一緒に会費の予納をお願いしています。したがって2002年卒業生から会費納入率100%、全員が正会員となっています。

■会費の納入方法について

- 1. 毎年、未納・分納の会員には、会報の発送に「郵便振替用紙」を同封させていただきます。お近くの郵便局でお手続きください。(手数料は校友会負担) また、用紙が必要な場合には、すぐに事務局よりお送りいたしますのでご連絡ください。
2. 事務局にて直接、現金でお支払いいただくことも可能です。その際は、事前に事務局までご連絡をお願いいたします。
3. 終身会費は、30,000円です。10,000円×3回の分納も可能です。

# TAMABI people's now

vol.001



# YUMURA TERUHIKO & TARA

graduate department of graphic design

本誌初の企画「TAMABI people's now」は、卒業生に「多摩美」と自分にまつわるエピソードをおりませる話といた... (text continues)

気がなつて、さっそく  
編集部：ここに来る途中、右手にあった床屋さん(らしき店)は、湯村さんと無関係とは思えなかったのですが... (text continues)

なぜ、多摩美だったのか  
マツノ：まず、お二人が多摩美に入ろうと思ったきっかけは？  
テリィ：要は突然なのよ、突然！高校からそのままにエスカレーターで行く予定だったんだけど、その頃、ジャズ喫茶がいっぱいあって、渋谷の「オスカー」なんて行くと、多摩美や桑沢の学生とかさ、グラフィックデザイナーたちの溜まり場になってね。グラフィックデザイナーっていうのは、当時花形商売だったし、女にもモテそうだし格好いいなって思った。それでまあ、突発的にデザイナーになりたい！って思ってた。それで周囲を見渡したら多摩美を受験する奴が、2~3人いたのね。それで色々話聞いて、「よし、じゃあ俺も受けよう！」って。その時12月だったから、受験まで2ヶ月くらいしかなくてさ、結局落ちて一浪したんだけどね。  
タラ：私のきっかけは、ただ絵が好きだったってことかな。高校3年になると進路を決めないといけないですよ。その時に、私もエスカレーター式に大学に進学できたんですけど、やっぱり絵の学校に進みたいって思って、それで多摩美を受けたんです。うん、本当に絵が好きだったっていうだけだね。  
スカした生き方よりヘタウマな生き方  
マツノ：「ヘタウマ」のスタイルをはじめたきっかけは？  
テリィ：もともとデッサンとか嫌いだっし、ものを正確に

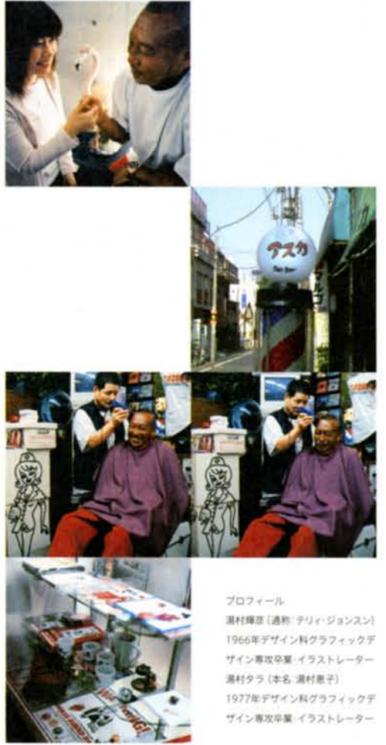
描いたりするっていうのに達成感も得られなかったし、何かないかな...って時に、下手と上手は紙一重だから、ものすごく下手っていうのは逆にものすごく上手を追い抜いちゃうかも知れないって考えてたら、下手が断然面白いぞ！って。価値観の逆転だね。素人が描いた絵とか、技術は稚拙でも心で描いてる。そのなんとも言えないお間抜け感がかなり面白いし、それならとことんヘタを目指そうと。その辺がヘタウマ・スタイルの始まり。  
タラ：テリィと出会う一番すごいと思ったのは、下手でもいいんだっていうことを、世の中に浸透させちゃったってことね。私、デッサンも絵も上手になりたかったけど、マツノ：そのヘタウマのこだわりとは？  
テリィ：スカした生き方よりヘタウマな生き方みたいな方が人間味があって愛らしいじゃない。お笑いの世界でも磨き上げた芸より素人芸の方が面白かったりね。ヘタウマ出世術とか、ヘタウマデパートとか、そんなずっことけたレベルまでヘタウマがブームになって、絵の世界でも今まで折角上手にリアルに描いてた人が、これじゃいけないってわざと下手に描いたりして(笑)。ブームなんて所詮どこかで消えていくんだからさ。ヘタウマに便乗した人はみんな駄目になっちゃった。  
マツノ：要するに、一言で言うとヘタウマ現象に対して一段上のところから見ていたと。  
テリィ：ヘタウマをブームにしてやろうという深い魂胆があったわけじゃないし、まあ、俺にはその表現がピッタリだったし、ただ自分の好きな事をやり続けてきた中でたまたまそうだったというね。



もっと熱くなるうぜ！  
マツノ：若いイラストレーターたちに一言。  
テリィ：コンピューターをみんな使うようになったじゃない。俺の時は、デザインするのに扇口を使ったり、写植を切り貼りしたり。今はMacの中で全部できちゃう。便利だと思うけど、何でもできるってことは極端にいうと、何かの拍子に赤ん坊でもデザインできちゃうみたいところがある。Macに頼るとものを創造していく空想力みたいのが育たないんじゃないか、本物の天才はもう生まれんじやないのかって、思うね。特にイラストってさ、この先どうなってしまうっていう不安はあるよね。  
マツノ：現在のイラストレーターのポジションってどう思う？デザインやイラストをMacから始めた人たちが、途中からアニメーションの方に進んでいく傾向もあるようだけど。  
テリィ：アーティストと漫画家の真ん中に挟まっちゃった感じのイラストレーターも立場ってかなり厳しいね。近頃は肩書きをあえて「アーティスト」って書く若いイラストレーターも多いしね。イラストレーターって、頼まれた絵をただ言われた通りに描くだけの職業みたいに捉えられているところがあるみたいで、ちょっと残念。  
タラ：漫画家でもカットは描けるし、依頼されればポスターの絵だって描ける。油絵の人だって描けるわけね。  
テリィ：漫画家って普段コマ割りで絵を沢山描いているから、カット一発でお金をもらえて楽だって、バンバンやっちゃう。その分イラストレーターは職場を奪われちゃってる。かつてはイラストの時代が、写真の時代かなんて持て囃されたこともあったのね。  
マツノ：アーティストとイラストレーターの線引きっていう

のは必要？  
テリィ：どんなジャンルにも垣根なんて必要ないと思うけど。アートを凌ぐイラストレーションがあってもいいのには、イラストレーター自身に垣根を越えるパワーが不足してると気がする。近頃、アートとデザインが合体したアートデザインなんてのも出回ったりして、増々イラストレーションが置いてけぼりになってる。イラストレーターも、自分のイラストレーションを自分でディレクション出来るぐらいじゃないと、とても時代は架けないよ。  
新宿の男、テリィ・ジョンソン  
マツノ：新宿から一度も離れないのは何か特別なこだわりがあるんですか？  
テリィ：なんで新宿なんかがデザイン会社やってるの？ってよく言われるのね。なんで青山とか原宿とかでやらないんですか？って。こんなところでやっているとデザインセンス悪いんじゃないかって(笑)。こんなところで毎日徹夜とかしてると、だんだん青山が遠くなっていくってぶつこさ言ってるスタッフがいたら、「じゃあ辞めれば」って言ったら、即辞めちゃった(笑)。そういう発想もあるんだなあって。なんで新宿かって、俺は新宿で生まれ育ってるからね。まあ、確かに泥臭い街だと思うけど、住んでみると面白んだよ。上っ面なおしゃれって、なんか取ってつけたようなものじゃない。そんなものたかが知れてるし。だったら新宿で泥臭さ、そのセンスのなんたるかを考えたほうがさ。一步港区に入ると、街が俺を拒絶してる(笑)。新宿区に戻って「小便横町」とか歩いてるとお帰りがさーい！って新宿の香りが優しく俺を包みこんでくれる。しみじみ俺には新宿が合ってるなとホッとする。  
マツノ：ある時、新大久保から始めて少しずつ無国籍化してきたその変化はどう思いますか？  
タラ：この一画はわりと住宅街なんです。でも、安いマンションとかがあると、歌舞伎町とか大久保の方で働いているアジア系の人達が住むようになってきたから、この辺の小学校とか中学校なんかもう外国人の子が多いみたいね。  
テリィ：朝早くゴミ捨てると、オカマの人達がぞろぞろ、帰ってくる。頬からあごの辺りが少し青くなっちゃってね(笑)。  
タラ：息子がまだ、学校通ってる時なんか、勤め回りのオカマさん達からすれ違いざまに「あらカワイイ〜」とか言われたりしてねえ。そういうのを振り切りながら学校に行ったりしてた。  
テリィ：あとは、歌舞伎町のほうから帰ってくるホスト軍団が。  
タラ：そう、ホストもすごい。  
テリィ：刺激的だよな。油断すると危ないっていう緊張感。デンジャーって感じね(笑)。白金とかに住んでシロガネーゼとか言われたい(笑)。でも、住まわせてもらえないかもね。審査で落ちちゃうかも。  
マツノ：住んでみたいなんて全然思っていないでしょうに。  
テリィ：まあ、ヘタウマだからね。ちょうどいいんですよ新宿が(笑)。  
いまだに師弟愛だと二人は笑う  
マツノ：からって話題は変わって、お二人の出逢いは？  
タラ：私の大学の頃の夢は、絵本作家だったんです。「いわさきちひろ」が好きで、卒業制作もそういう絵本だった。それでテリィには卒業制作を見ても知り合ってたんですよ。在学中に私の友達が、展覧会とかいろいろ活動をやっていた、そういう人がテリィのところに結構出入りしていたんですよ。  
テリィ：それでまあ、そういう連中が集まって、かわいい子いないの？とかって話になるじゃない。それで、色々つかえひっかえ連れてくる中にいたの、かわいいタラさんが(笑)。でも、持ってきた作品はちゃんと褒めましたよ。いいなあとか全然思っていない(笑)。  
タラ：本当、全然思っていない(笑)。  
テリィ：その時のタラさんは無色透明で、春の海のようにゆったりしていて、がーんと惹かれちゃった。  
タラ：それで結局、絵本を作っていたのにテリィと知り合っ

て、だんだん、やっぱりちょっと...あの床屋さんじゃないけど(笑)。  
マツノ：あっ、ここにも変えられた人がいたってことね？  
テリィ：将来一緒に住むのに、このまま「いわさきちひろ」のメルヘン世界でやっていけるのもちょっと辛いなあ...って。どうしようかなあって色々作戦考えて。さり気なく「金髪の外人なんか描けるかな？」とかね。タラさんは素直だから暗示にかけ易かったね。  
タラ：っていうか、もう、大先輩だったしね。当時すでに有名で。  
テリィ：それで、だんだんストリップ劇場のポスターとか見せたりして。「もうちょっとエロチックにした方がいいんじゃないかなあ」とか言ったりして。徐々に徐々に俺の色に染めていったわけですよ。美しい師弟愛でしょ(笑)。  
マツノ：夫婦でいつも一緒に仕事してると、なかなか上手いかわないってことはないですか？  
テリィ：ほとんど離れる事って無いよな。ちょっと隣の部屋まで行くのに「何処行くの？」とか言われちゃうから。「隣の部屋行くだけだよ」って。「いつ帰ってくるの？」「そんな心配なくても隣の部屋行くだけだから」って。  
あと、指相撲。こんなに仲良くてもちょっとしたこと喧嘩しそうな事もあるからね。そういうときは指相撲しようよって。負けた方は文句を一切言わない。これ、夫婦円満の秘訣ね(笑)。  
タラ：ほとんど価値観が同じだし。一緒にいても退屈することはありません。先生と弟子っていう関係をずーっと維持しているのもうまいっての秘訣かな。  
お二人にとって多摩美とは？  
マツノ：最後に、お二人にとって多摩美とは？  
テリィ：俺は山名文夫先生に師事したんだけど、課題違反の常習犯だったの。でも、ヘタウマを習得できたから、多摩美で学んだことは大きかったね。  
タラ：テリィもそうだし、仕事も、自分のやりたいことも全て見つかったっていう所かなあ。



プロフィール  
湯村輝彦(通称:テリィ・ジョンソン)  
1966年デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業 イラストレーター  
湯村タラ(本名:湯村恵子)  
1977年デザイン科グラフィックデザイン専攻卒業 イラストレーター

取材:2004年10月8日(金)  
フラミンゴスタジオにて  
撮影協力:ヘアーサロン アスカ  
(Tel. 03-3354-1988)  
写真:坂本政十郎

from  
secretariat  
office

### 第10回定期総会のご報告

2004年6月6日(日)、校友会の定期総会も10回目を終了しました。一期3年で、今年から第4期となるわけです。定期総会では、会員のみなさまに活動内容を理解していただけるよう議事進行しています。そして、できるだけたくさんの卒業生に集まっていたらいいよ、ささやかではありますが、各種企画を設けています。懇親会に加え「ガーデン同窓会」というホームカミングデー企画は4回目となりました。こどもと一緒に母校に足を運んでほしいという思いから「こどものワークショップ」企画、現在の学生と触れ合いたいという思いから「東京五美術大学管弦楽団の演奏」「フラメンコ部の演舞」「芸術祭で学生が運営するラーメン屋台」企画などを盛り込んでいます。これまでの定期総会は、上野毛キャンパスでの開催でしたが、近頃では、八王子キャンパスでの開催を希望される卒業生の声も聞こえます。八王子キャンパスの卒業生が多くなってきたこともあり、八王子キャンパス計画により、大きく様変わりしたキャンパスを見たいのご要望もあるようです。これからも皆さんに足を運んでいただけるような企画をたてていきたいと思っております。



1. 定期総会風景: 今年度の事業計画、収支報告、会則変更や役員改選など校友会運営において重要事項を審議・決定します。  
2. 懇親会&ガーデン同窓会: 今年は雨のため屋内の映像スタジオで行われました。  
3. こどものワークショップ「工作屋台」: 構内や研究室をまわって集めた廃材を利用して、多摩美の卒業生と学生スタッフが、こどもと一緒に制作します。  
4. ガーデン同窓会受付風景: スタッフ全員、多摩美の卒業生と学生です。

### 第11回定期総会のお知らせ

日時: 2005年6月5日(日)

定期総会及び関連イベントの内容は、例年通り4月末にお知らせいたします。みなさん、お友達に声をかけあってご参加ください。

### チャリティ展覧会「多摩美術大学校友会小品展2004」について

日時: 2004年12月13日(月)~19日(日) 10:00~19:00(最終日15:00まで)

初日17:00よりオープニングパーティー

場所: ギャラリーくぼた別館(東京都中央区京橋2-10-9)

「私費留学生に対する支援が少ない、なんとか奨学金を出せないものか。」7年前、そんな学内教員の声をきっかけに、チャリティ展覧会「多摩美術大学校友会小品展」開催にふみきました。一般的には、寄付金だけを募ることも考えられたかもしれませんが、しかし、あえて手間のかかる展覧会にしたのは、私たちができること、楽しんでご協力いただける形にしたかったからです。昨年、このチャリティ展覧会の趣旨に賛同し、わざわざ長野県から作品を買いに来てくださった卒業生がいました。若い卒業生たちが、ボランティアで展示作業を手伝ってくれ、近頃では、若い世代の出品が多くなってきたことも大きな励みになっています。初日のオープニングパーティーは、年齢層の幅広い小さな同窓会のような感じです。今年も150点以上の作品を展示し、オープニングでは校友会オリジナルワインをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。これからも関わる卒業生の輪を広げながら楽しんで続けていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いいたします。遠方からも送っていただきやすい小作品、卒業生・教職員であればどなたでも出品できます。年齢も科も作品のジャンルも一切問いません。来年は、ぜひ、ご出品もお願いいたします。



展覧会場前にて: 校友会理事と事務局、ボランティアスタッフによって展示搬入作業が行われます。



### 第1回出前アート大学を終えて — 事務局から —

初めてのことはかりで試行錯誤の日々が続きましたが、なんとか一つの授業を行うことができました。講師、協賛企業、学生スタッフ、担当理事のご協力に心より感謝いたします。大きな規模、たくさんの授業数を実施するにはまだまだ微力な事務局です。しかし、お電話、お手紙によって活動に対する反響もいただき、今、社会からの需要を強く感じています。反省点は謙虚に受けとめ、次の授業に活かし、全国に「出前」をしていきたいと思っております。全国の卒業生のみなさん、その際には、暖かいご支援、ご協力をお願いいたします。協力会社の(株)中川ケミカルには、多摩美術大学校友会から感謝状をお送りいたします。ありがとうございました。

#### あなたの展覧会・イベント情報の募集

Eメールはもちろんのこと、パソコンをお使いでない方もDM1枚を校友会事務局にお送りいただければ、こちらで画像と文字情報をホームページ上に掲載します。「今月の展覧会」に、ぜひ、あなたの情報をお寄せください。また、「卒業生のHPリンク集」の情報もお待ちしております。

#### お忘れなく!住所変更は校友会へ

卒業生の名簿管理は校友会で行っています。変更がある場合は、校友会事務局へご連絡ください。なお、外部業者によって「多摩美術大学同窓会名簿」(一例)などのタイトルで名簿が販売されることがあります。校友会とは一切関係ありませんので、ご注意ください。

#### 編集後記

先輩の丸山剛先生('73GD)がデザインされた、見慣れたオレンジ色の会報も発行から10年が経ち、今回大幅にリニューアルしました。これまでの活動報告・事務局だよりの特集と卒業生インタビューのページを加え、全面カラーになりました。会報は校友会のことを知っていただくための大切な役割を担っています。まずは内容、お伝えしたい内容をいかに盛り込み、わかりやすくお伝えするか。その難しさを改めて考えさせられた号となりました。ぜひ、皆様からのご意見・ご感想・情報をお待ちしています。

#### 訃報

校友会理事、本学造形表現学部デザイン学科非常勤講師の神田昭夫氏('59図平)が、平成15年11月21日にご逝去されました。校友会の設立準備から大変ご尽力をいただきました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

多摩美術大学校友会会報 No.10 発行日:2004年11月30日 発行:多摩美術大学校友会事務局 〒158-8558 東京都世田谷区上野毛3-15-34 Tel:03-5758-7738 Fax:03-5758-7739 E-mail:alt@tamabi.ac.jp http://www.tamabi.ac.jp/alt/

企画編集:和田達也 上村二基 松野航 末房志野 岡廣聡子 デザイン:末房志野 印刷:有限会社グラフィックエイ・エム・エー

多摩美術大学校友会会報  
「alt」アルティ  
The alumni association of  
Tama Art University

No.10  
Autumn 2004

alt